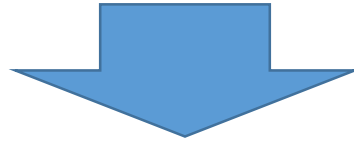


働き盛り世代は、ほとんどが生計維持のための「はたらく」



高齢者世代は、就労所得から「年金」や「貯金」等をベースとした生計に移行し、身体も徐々に衰えを感じていく中で、「はたらく」ことはどのような意味・ニーズがあるのか。

ライフステージ別の「はたらく」とは

20代

40代

60代

生計維持のための
「はたらく」

「はたらく」目的

キャリアアップ



マイホーム・マイカー



貯金



出産・子育て



教育費



介護・看護



etc . . .

高
齢
期

高齢期以降の
「はたらく」

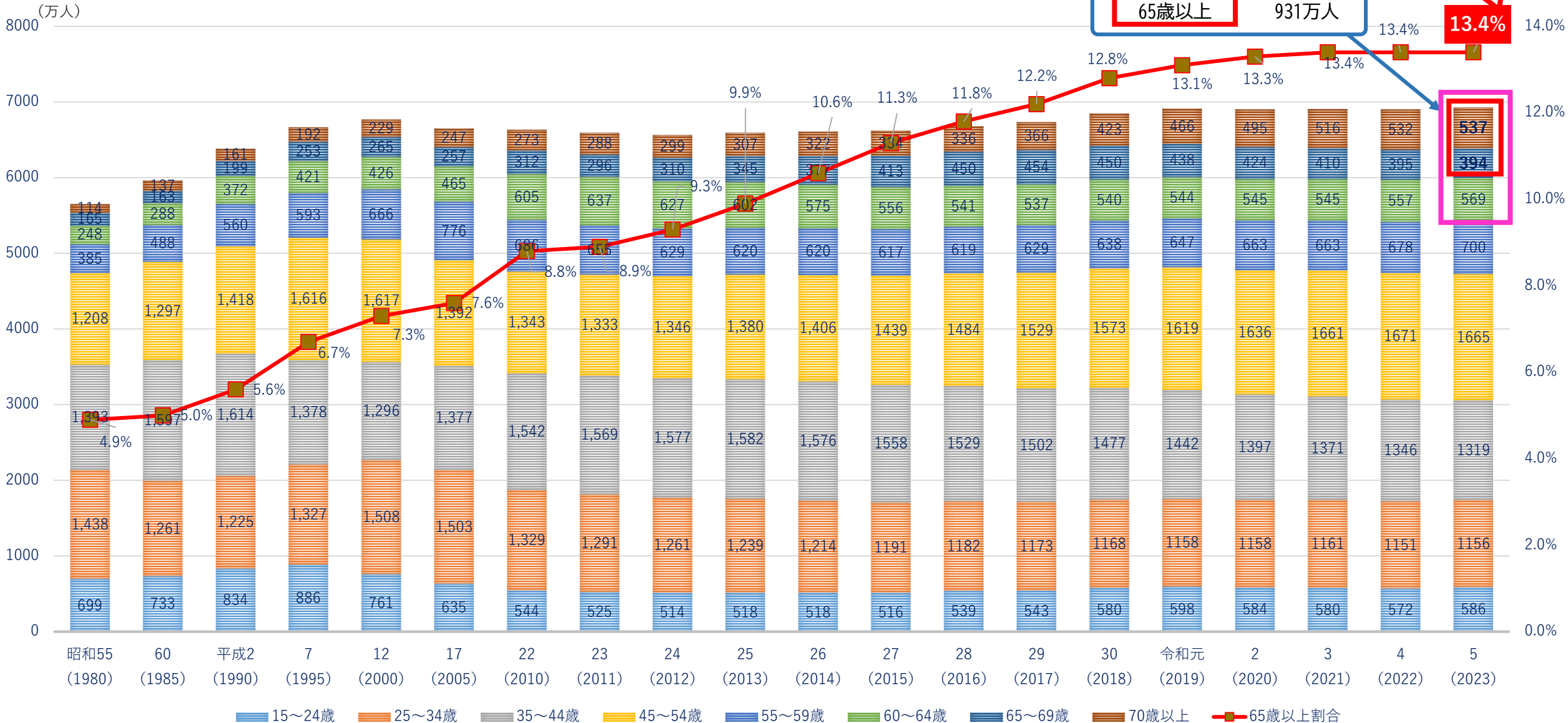
一定、生計維持のための
「はたらく」を終えてから、
高齢期の「はたらく」ことに
どのような意味や理由の
変化があるのか。

高齢者の「はたらく」状況 ①

過去最多の高齢者の就労者数

労働人口

60歳以上 1,500万人
65歳以上 931万人

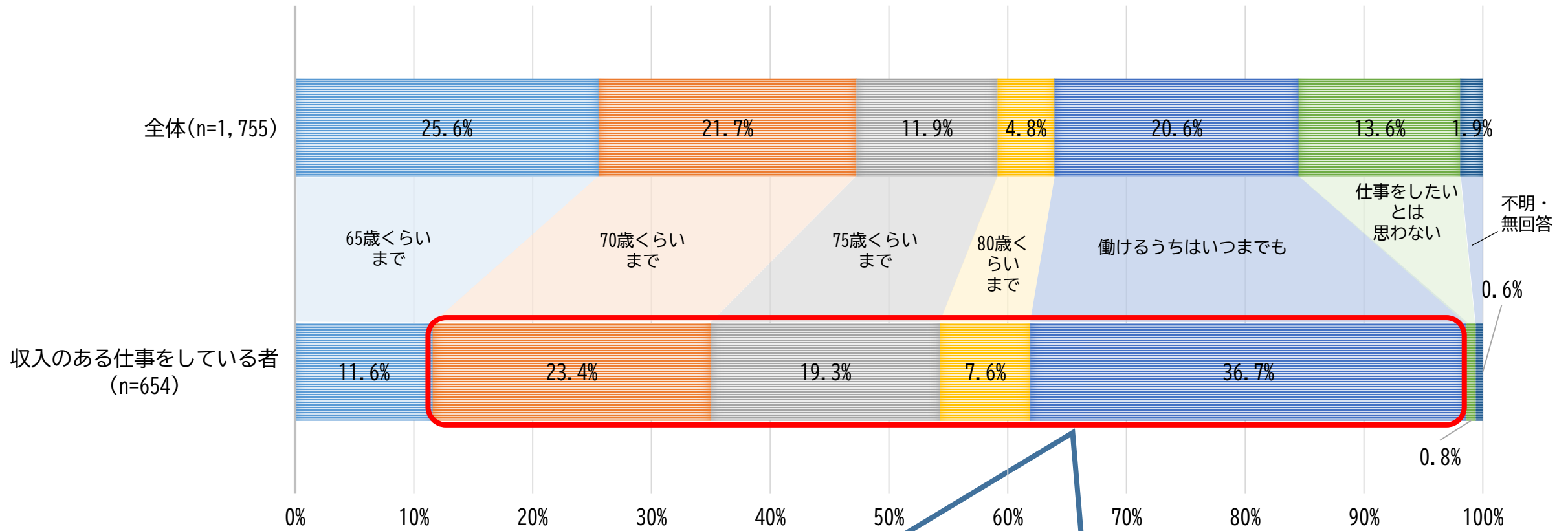


資料：総務省「労働力調査」を加工して引用

高齢者の「はたらく」状況 ②

現在、定年延長が進み、60歳以上の雇用が増加する一方で、「働けるうちはいつまでも」働きたいといった高齢期にも高い就労意欲があることがうかがえる。

何歳ごろまで仕事をしたいか



約9割の人が70歳くらいまで又はそれ以上の年齢まで働きたいという人が多い

高齢者の「はたらく」といっても多様なかたちがあるのではないかな



生計維持



生きがい



社会参加



社会貢献



成長・学び



仲間づくり

はたらく

高齢者の「はたらく」へのニーズへの対応

生計維持の就労

ハローワーク

臨時的・短期的就労

シルバー人材センター

生きがい就労

支え合い活動
(地域ボラン
ティア)

はたらくラボ
(内職等)

交流・趣味の場

百歳体操・
ふれあいサロン等

心身の状況や「はたらく」ニーズにより、はたらき方が変化

介護予防・フレイル対策の度合い

就労的活動支援コーディネーター

- ・ 兵庫県内では41自治体中5自治体で配置している。
- ・ 高齢者の「はたらく機会・場の提供」を介護予防・フレイル対策として実施している事例は全国的にも少ない。

高齢者の「はたらく」に対して、切れ目のない支援が必要では？

「はたらく」ニーズに応じた
更なる多様なメニューの確保は可能か？

「はたらく」ニーズに対する
総合的な相談体制の整備は必要か？

今日は、高齢者の「はたらく」をテーマに、
これまでの取組の中で「感じたこと」等、生の声を教えていただき、
今後の展望について、ご意見をお聞かせください。